

岩津ねぎだより

号外

平成 28 年 9 月 8 日
朝来農業改良普及センター
和田山総合営農生活センター

べと病の再発注意

台風 12 号の影響で 9 月 5 日に降雨がありました。

今後、気温が低下すると、今年春に多発した**べと病の再発**が懸念されます。

雨が降り止んだら、以下の農薬で防除しましょう。

べと病発生生態

平均気温が 15~20℃で降雨が続くと多発する。土壌中に被害葉が残ると、伝染源となり、連作すると多発する。秋発病した株が冬を越すと春季に多発する。

防除の要点

1 ベと病発病株を見つけたとき

- ① ほ場を見回って、べと病の発病株を見つけたら、早めに抜き取って処分しましょう。(伝染源の除去)



葉に黄白色の不鮮明な病斑を生じる。
やがて、灰白色の霜状のカビを生じる。

- ② 薬剤散布をします。

農薬名	使用量	使用回数	使用時期・使用方法
リドミルゴールドMZ	1,000 倍・100 ~300 l/10a	3回以内	収穫 30 日前まで・散布

2 ベと病が発生していないとき

- ① 降雨後、以下の薬剤で予防散布しましょう。

農薬名	使用量	使用回数	使用時期・使用方法
ジマンダイセン水和剤	600 倍・100~ 300 l/10a	3回以内	収穫 14 日前まで ・散布
Zボルドー水和剤	500 倍・100~ 300 l/10a	—	—・散布
ヨネポン水和剤	500 倍・100~ 300 l/10a	4回以内	収穫 7 日前まで・散布

※なお、農薬はいずれも展着剤を使用して下さい。

秋は黒斑病の季節

黒斑病は秋の台風時期に多発しやすく、11月頃まで発生がつづきます。雨が降り止んだら、以下の農薬で防除しましょう。

黒斑病発生生態

発生しやすいのは24~27℃で降雨が続くと多発する。肥料切れで発生しやすい。

防除の要点

1 追肥・排水・予防散布

肥料切れで発病しやすくなるので、追肥・中耕培土など適正に行いましょう。

また、多湿条件下で多発するので、ほ場の水はけを良くしましょう。

温暖多雨条件で被害が多くなるので、降雨の合間に農薬の予防散布を行いましょう。



葉に紡錘形の斑点を生じる。病斑上にはすす状のカビを生じる。
すす状のカビは同心円状の輪紋を生じる。

2 黒斑病の防除薬剤

	農薬名	使用量	使用回数	使用時期・使用方法
予防	ジマンダイセン水和剤	600倍・100~300ℓ/10a	3回以内	収穫14日前まで ・散布
	ダコニール1000	1,000倍・100~300ℓ/10a	3回以内	収穫14日前まで ・散布
治療	テーク水和剤	600倍・100~300ℓ/10a	3回以内	収穫14日前まで ・散布
	オンリーワンフロアブル	1,000倍・100~300ℓ/10a	3回以内	収穫14日前まで ・散布
	アミスター20フロアブル	2,000倍・100~300ℓ/10a	4回以内	収穫3日前まで ・散布

※なお、農薬はいずれも展着剤を使用して下さい。

<問合せ先>

和田山営農生活センター : 672-4800
朝来営農生活センター : 670-4341
山東営農生活センター : 670-7744
朝来農業改良普及センター : 672-6886